県砂利協同組合連合会総会

良質な砂利供給に一丸

県砂利協同組合連合会（東郷庄三郎会長）は30日、鹿児島市のグリーンホテル錦生館で第22回通常総会を開き、適切な採取・販売体制の確立や組織体制の強化等を柱とする新年度事業計画を決めた。

総会では冒頭、東郷会長が「砂利の採取を取り巻く状況は、環境問題の意識の高まりにより、今後更に厳しくなると予想される。地域住民との協調を図りながら、良質の砂利を供給できるよう、意識の高揚を図り責務を果たすため一丸となって努力して参りたい」と挨拶。

引き続き、中薗晃氏（県西部砂採取協同組合代表理事）を議長に選出して議案審議に移り、13年度事業報告・収支決算、14年度事業計画・予算案など合わせて7議案を審議、原案通り可決承認した。また、役員補充では、新理事に西田光一氏（㈲開基産業）を選出した。

新年度事業計画などを決めた総会
＝鹿児島市のグリーンホテル錦生館で

良い出来栄えの出来映えを見て、良好な工事を——と挨拶する今別
＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

今別府産業 リフォーム事業部CS会設立総会

顧客に安心される仕事を

今別府産業㈱（今別府英樹社長）は30日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで「リフォーム事業部CS会」の設立総会を開き、地域ナンバーワンのリフォーム事業を目指すほか、井上勝雄氏（井上工務店）を初代会長に決めた。

リフォーム事業部CS会は、少子高齢化が進み住宅産業は量から質への大きなシフトが潮流となっており、同社の理念である環境づくり、人づくりの基本姿勢のもと、豊富な知識と良質なサービス提供をモットーに適正な価格でお客満足の集団を設立させることが必要と発足。

会の冒頭、顧問に今別府社長、会長に井上氏を推薦して始まった。設立趣意書で、今日、建設業界は、厳しい状況にあり、そのような中にあって、従来の建築、土木の資材業から変革し、リフォーム事業でも地場企業の利を生かし安心を与え、他社にないものを打ち出し、今別府モデルをつくっていきたい。また、お客の声に耳を傾け、適正な見積り、良好な工事で喜んでもらえる活動を目指したい」と挨拶。次いで、井上会長は「会員が一致協力し、お客様の声にいつもニコニコ笑顔で接してほしい」と決意を述べた。

続いて、議事審議に入り、第1号議案（今別府社長選任）、第2号議案（会則）、14年度活動及び予算案を承認した。

会員は次の通り。

サッシ＝㈲アルミセンター大窓▽塗装＝㈲内外塗装　㈲柳原塗装▽内装＝㈲鹿児島スチール　㈱川内建装▽クロス＝芝内装▽建築＝㈲良建　㈲窪建設▽空調＝末吉冷暖　㈲小城冷熱工業　㈲翔輝▽外柵＝㈲太陽住設　井上工務店　豊留工業　光観光開発㈱▽畳・襖＝東畳店　田中畳店▽電気＝電気美術㈱古川電気▽給排水＝㈱徳田設備工業　㈲吉高設備工業　㈲和設備▽ガラス＝サンウエーブ工業㈱　ダイキン空調鹿児島㈱

川内建築四団体連絡協議会研修会

4大プロジェクトを学ぶ

川内建築四団体連絡協議会（今村裕会長）は29日、川内市のホテル太陽パレスで約90人が出席して14年度第2回協議会を開いた。会では、川内市都市計画課から担当者を招き、同市の事業概要と都市計画マスタープランなどについて研修があり、川内川市街部改修など4大プロジェクトなど学んだ。

冒頭、今村会長が「昨年発足して早速、2回の現場見学会と川内中央中のボランティア作業と、意義ある活動が展開できた事に感謝します。公共事業予算の削減により、新規建築物が減少するなか、既存建物のリフォームを提案していかねばならないと思う。今年度も、ボランティアはじめ技術研修会、講演会などの事業を推進していきますが、本日は、川内市の事業について勉強したいと思いますので、しっかり学んで下さい」と挨拶。

川内市都市計画課の徳重勝美係長が、「川内市の事業概要と川内市都市計画マスタープラン」と題し、スライドにより①九州新幹線鹿児島ルート②川内川市街部改修③南九州西回り自動車道④重要港湾川内港—の4大プロジェクトについて、現状と見通しなどを説明、参加した会員は、メモを取りながら熱心に勉強し、終了後は、懇親会を開いて親睦も深めた。

川内市事業概要を学んだ協議会
＝川内市のホテル太陽パレスで

鹿児島市西駅名選定委

新駅名を公募へ

鹿児島市は30日、同市のかごしま市民福祉プラザで第1回西鹿児島駅駅名選定委員会を開き、経済界や各種団体など106の団体の代表者が参加して、西鹿児島駅の駅名改称の選定方法などについて協議した。

冒頭、赤崎義則鹿児島市長が「市民や各種団体の意見を幅広く集約し、陸の玄関口にふさわしい駅名、時代とともに風化しない駅名を決定して頂きたい」と挨拶。同委員会の会長に赤崎市長を選出して協議に移り、駅名改称に係る主な経緯とこれまで3回開かれた駅名検討委員会の概要などが報告された。

協議では各委員から、「地元の地域感情だけで判断すべきではない」などといった厳しい指摘もあったが、終始、鹿児島駅の取り扱いをどうするかが議論された。

結局、駅名改称までタイムリミットが迫っていることや鹿児島駅を新駅名の候補からはずすのは誤解を招くといった観点から、新駅名としてふさわしい名称の候補を委員106人と市内外の一般の人達から広く公募して選定することとなった。

今後は、数回の委員会を開催して年内にも新駅名を決定し、経済団体を中心にして設立される駅名改称推進委員会（仮称）が来年2月にもJR九州と駅名改称の協定書を締結する見通しである。

駅名改称について協議した選定委員会＝鹿児島市のかごしま市民福祉プラザで

県建築協会労務委が安全パト

炎天下の作業を安全に

県建築協会労務委員会の14年度第1回安全パトロールは30日、鹿児島市上福元町の開陽高校新築工事現場で開き、足場の安全確保や炎天下における作業員の健康管理策をチェックした。

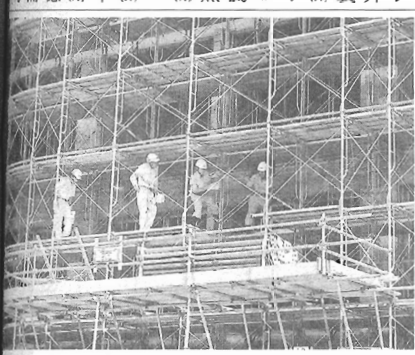
パトには、同協会の内村實会長、上山一吉、羽月信雄両副会長、山下理労務委員長ら約20人が参加。今回は会員施工建築現場の中で、開陽高校新築2工区（前屋敷組・水口建設JV）、同3工区（渡辺組・中山建設JV）を対象に実施。

このうち、3工区はRC造4階建延べ3828平方㍍の3階スラブ支保工解体、4階外部足場組み立て、クレーン作業などを診断。併せて、現場事務所の鉄骨屋根の崩れ対策などを指摘した。

同委員会では、8月下旬に第2回目のパトを実施する予定。

パト後の反省会で、診断員は総じて良好な現場であったとしながらも、「救急箱の位置と中身の表示が不明確」「足場と躯体とのすき間が見られ、落下防止策を万全に」「クレーン、玉掛け作業は手順に従い入念に」「熱中症対策を十分に」などと指摘した。

同委員会では、8月下旬に第2回目のパトを実施する予定。



足場組み立ての安全確保を診断するパト員
＝鹿児島市の開陽高校新築現場で

【訂正】7月30日号1面の鹿児島国際大学国際交流会館建設の記事で一部誤りがありました。正しくは次の通りです。本体工事＝新川組▽給排水衛生設備＝昭和テクノ工業▽電気設備＝川北電工▽空調設備＝大成空調▽エレベーター工事＝鹿児島日立▽ガス設備＝日本ガス▽電話設備＝昭和通信工業▽設計監理＝三反田勝男設計事務所となります。